

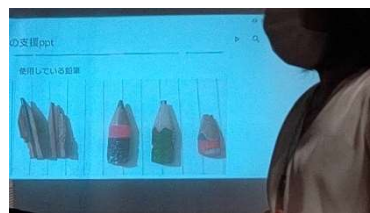
インドの学校への教科書支援

◆ グループメンバーの熱い思い ◇

グループができて半年ほどして、熱心なグループメンバーの I さんから、インドで小学校をやっている高森さんという方を応援したいという話がありました。この高森さんという方は、若くしてインドに渡り、ガシュラホという小さな村で貧しい子供のために「メダカ小学校」設立し運営しているということでしたが、コロナ禍で思うように支援が集まらず困っているとのことでした。特に日本製の鉛筆(折れずに長持ちするらしい。)の支援を求めているとのことで、高森さんのフェイスブックなどを教えてくれました。当時、私たちは初の国内イベント、スリランカと沖縄に架かる虹(東京イベント)を間近に控えていた時期でしたが、この I さんの熱い思いに押される形で高森さんの支援ということをイベントの中に盛り込むことにしました。

◆ イベントで多くの共感を呼ぶ ◇

「スリランカと沖縄に架かる虹」というイベントは、スリランカ独立 50 周年と沖縄復帰50周年という同じ50年という時の流れをみんなでお祝いしようというものでしたが、その中で高森さんのやっている小学校支援というテーマは実際マッチするのか、来ていただいた方々に違和感を持たれないかという心配はありましたが、先ほどの I さんのプロジェクターを使った説明、こんなに小さくなるまで大事に鉛筆を使っているというような説明に多くの人の共感を呼ぶことができました。実際に多くの人が鉛筆等の支援が集まり、紙袋いっぱいになるほどでした。



◆ 教科書支援 ◇

その後、高森さんと SNS でやり取りをしたところ、SNS の呼びかけもあって文房具はだいぶ集まってきているが、なんといっても今年度の教科書を子供たちに支給できなのではと不安な日々を送っているとのこと。そこで、私たちは先のイベントでの収益金を折半し(その旨はイベント時にも告知していました。もっとも、本来は文具購入という名目ではありましたが。)、高森さんに特に使い道を指定せずに送金しました。結果としては、その資金や他の寄付などから、子供たちに教科書が支給できたとのこと、本当に良かったと思います。

これからもできれば、高森さんの学校を始め、苦勞しているボランティア活動の支援に力を注げればと強く思ったのと同時に多くの人と手を取り合うことの大切を改めて感じた出来事でした。

